

「」で植物の種運ぶ

日本各地に生息するタヌキは古くから人間になじみ深く、昔話や民話にも登場し



木の实を食べるタヌキ。2013年、長野県信濃町（高槻成紀さん提供）

身近な野生動物タヌキ

ます。その生活スタイルが、ふんを手がかりにした研究で、明らかになりつつあります。イヌ科タヌキ属に分類され、主に夜に活動するタヌキを10年以上研究している麻布大学のちの博物館の上席学芸員 高槻成紀さんは、宮城県をはじめ、各地でふんがある場所を探し、カメラを設置して行動を観察するとともに、持ち帰ったふんを水できれいに洗い、内容を分析

しています。

東京都日の出町での調査では、ふんは決まった複数の場所ですており、ふんの中からは里山のギンナンやカキの種、雑木林に多い低木のヒサカキ、林の下に生える多年草のヤブランの種子などが見つかりました。高槻さんは「これまであまり重要視されてこなかったが、タヌキも植物の種を別の場所に運ぶ役割を果たしている」と話します。つまり、植物が子孫を多く残す手助けをしているのです。

野生動物が都会から姿を消す中、東京23区内でも生息が確認され、たくましく生きるタヌキ。高槻さんは「時々でいいので、身近な野生動物であるタヌキに思いをはせ、大切にしてほしい」と話しています。高槻さんは1月に「タヌキ学入門」（誠文堂新光社）を出版し、生息だけでなく、民話や昔話に登場するタヌキのイメージや「たぬきオヤジ」などの一般によく使われる表現ができあがった背景についての意見を述べています。

2016年5月29日
朝刊
YOMOっと静岡

①タヌキの種を運び方を考え、見出しの「」の中に書きましょう。

②タヌキはどんな植物の種を運びますか。

[

]

年 組 名前